

日本学科カリキュラムマップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(日本学)の学位を授与します。 ①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考) ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲) ③国内外の大学院への進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度) ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)									
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
							①	②	③	④
日本研究入門		講義	1	2	日本に関連するテーマについて読む、聞く活動を行う。その結果をまとめた文章にしたり、発表したりする。中級レベルの語彙や表現を学びながら、日本についての知識を広めるとともに日本語能力を総合的に高める。	1.日本について知識を広め、さらに理解を深める。 2.比較的長い文章を読んで理解したことを伝えたり、自分の考えをまとめた文章にしたりする。 3.読む・書く・話す・聞くことの四技能をバランスよく身につけ、総合力を高める。	◎		○	
ナラロジー研究入門		講義	1	2	ナラロジーとは、グローバル化時代の奈良研究を意味しており、「日本全体や国際的視野から奈良を見ること」、「固有のものと考えられやすい日本や奈良の文化がいかに異文化間交流の産物であることに気づく」といった基本概念に基づき、奈良という地域の現代を含めた総合的研究を目指していることを学ぶ。	1.奈良という地域を、地理・歴史・自然の観点から概観する。 2.文化や社会がいかに、人と人、人と自然との交流によって生成してきたかを知る。 3.自身の意見を、他者の多様な見方と比較しつつ、理解を深める。	◎		○	
文化人類学入門		講義	1・2	2	日本の文化を比較研究するために文化人類学の基礎的な内容を理解する。研究対象、隣接分野や下位分野、基本的な概念、学説史の流れなどを学ぶことから、文化人類学者が行っている研究の実態についても知る。	1.文化人類学の研究対象・研究方法について基礎的な理解を得る。 2.「民族」や「文化」など、文化人類学の基本的な概念を学ぶ。 3.進化主義、傳播主義、機能主義など、文化人類学の学説を学ぶ。	○		◎	
日本文化入門		講義	1・2	2	日本人の伝統的な暮らしの各場面を、とくに日本民俗学の知見を参考にしながら学ぶ。	1.日本の農村の暮らしについて基礎的な知識を得る。 2.日本の民俗学について基礎的な知識を得る。 3.日本人の人生儀礼や年中行事にかかわる日本語の語彙を学ぶ。	◎		○	
言語学入門		講義	1・2	2	留学生の日本語学習に役立つ言語学の基礎知識を得る。また、学生間の議論を取り入れながら学習者の母語と日本語の対照も行う。	1.言語学の研究の基本姿勢を理解する。 2.言語学の研究分野を理解する。	○		◎	
フィールドワークの方法		講義	1・2	2	学外において実地調査を実施するための事前の準備や、現地での作業の実際について、どの学問分野にも共通する基本的な技術を理解する。	1.当該地域の地理的・歴史的背景を調べる方法について理解する。 2.統計資料の収集の方法について理解する。 3.現地で調査を行い、そのデータを記録する方法について理解する。	○	◎		
世界史のなかの日本		講義	1・2	2	留学生に向けて、旧石器時代から現代までの日本の通史を、留学生の母国の歴史と対比することで、日本の歴史の大きな流れをつかむ。	1.同時代ごとの、日本と諸外国の歴史を対比しつつ理解を深める。 2.特に20世紀以降の日本の世界における位置づけを知る。	◎		○	
日本表現文化概論		講義	2・3・4	2	文芸を含む日本を代表する伝統的な舞台芸術(雅楽・能楽・文楽・歌舞伎)を概観する。文芸の中でも、近世に誕生した俳句表現の特徴や、わび・さびといった日本を特徴づける表現美についても学ぶ。	1.日本の代表的な古典芸能について基礎知識を得る。 2.俳句という詩表現の特徴やわび・さび概念について基礎的な説明ができるようになる。	○		◎	
交通地理学概論		講義	2・3・4	2	地理学について基礎的な理解を得た後、その一分野である交通地理学について、鉄道交通、道路交通、海上・内陸河川交通、航空交通などを具体的に取りあげて概観する。とくに日本の鉄道史における事例をいくつか取りあげて理解する。	1.地理学という学問分野について基礎的な理解を得る。 2.各種の近代交通機関について基礎的な理解を得る。 3.日本の鉄道史について基礎的な理解を得る。	○	◎		
日本多文化共生概論		講義	2・3・4	2	日本が多民族社会であることを確認し、その歴史と現状について概観する。まず北海道の先住民族アイヌ民族の問題と被差別部落問題とについて基本的な理解を得る。その後、兵庫県神戸市などの国際港湾都市を事例にとりあげて、日本列島への外国からの移民と、その子孫がつくるエスニック・コミュニティについて具体的に見ていく。	1.日本の多民族状況についての基本的な知識を得る。 2.現在の日本の外国人受け入れの問題を日本の近現代の歴史のなかで理解できる。 3.日本のエスニック・コミュニティの成り立ちと現状を国際港湾都市を例に理解できる。			○	◎
日本精神文化概論		講義	2・3・4	2	日本の精神文化を自然宗教(アニミズムなど)と創唱宗教(仏教など)の習合した民間信仰が無意識の「見えない宗教」になった民俗宗教と捉え、その概要を学ぶ。とくに日本の精神文化の地理的、歴史的背景についての基礎的事項を、民俗宗教に関連する日本語の専門用語とともに理解する。	1.宗教現象を学術的に説明するための基本的な考えかたがわかる。 2.日本の地理と歴史を古代以来の思想・宗教の影響から説明できる。 3.現代の日本人の生活実践を思想・宗教の影響から説明できる。		◎		○
ナラロジー概論		講義	2・3・4	2	奈良という地域の歴史のおよび現代的な現象を、現代に至るまで歴史的にたどり、広く国際的視点を取り入れながら学ぶ。さらに奈良地域に見られる諸問題を特定し、改善への取り組みを見る。	1.歴史的視点から奈良が日本のはじまりであることを確認する。 2.普遍的価値基準により奈良を見なおす。 3.日本に広くみられる社会的課題と解決への試みについて、奈良の中に具体的事例を見出す。		○	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(日本学)の学位を授与します。 ①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考) ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲) ③国内外の大学院への進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度) ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)									
科 目 名		授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
							①	②	③	④
日本生活文化概論		講義	2・3・4	2	近現代の日本人の生活用品について、小売の場面に焦点をあてながら理解する。最初に日本の「みせ」の起源を、中世の京都・奈良の町や19世紀の「博覧会」や「勸工場」に見る。そして現在の「百貨店」、「商店街」、「スーパー・マーケット」、「コンビニエンス・ストア」の歴史的背景をそれぞれ理解し、そこで売られていた商品について具体的に知る。	1.近現代の日本人の生活用品について理解する。 2.日本の流通の歴史について基本的な事項を理解する。 3.現在の日本の商店街やコンビニエンス・ストアが抱える問題について理解する。	○	◎		
社会言語学概論		講義	2・3・4	2	話者の年齢・性別・居住地域・立場などによって現れる言語の「ゆれ」を研究する社会言語学の基礎を学ぶ。	1.社会言語学の全体像や意義を理解する。 2.日本語や諸言語におけることばの「ゆれ」を、具体的な事例をもとに理解する。			◎	○
日本表現文化特論		講義	3・4	2	日本最古の芸能論であり、現在も国内外で広く読まれている古典「風姿花伝」を通じて、日本の表現文化に触れる。	1.「風姿花伝」の主な内容について理解を深める。 2.単なる芸能文化だけではなく、広く日本の現在の文化にも「風姿花伝」の内容が反映していることを知る。			○	◎
経営人類学特論		講義	3・4	2	経営とは、人・モノ・カネ・情報を、個人や社会の幸運に資する目的のためにマネジメント(管理・運営)することであり、企業など営利組織に限定されるものではなく、NPO・NGOなど非営利団体はもちろんのこと、個人の人生や家庭の運営もまた経営であると考えられる。	1.経営という人間行為を広義の意味で捉え直してみる。 2.経営という行為を、広く人間学の意味で捉えていたと思われるピーター・ドラッカーや松下幸之助などの思考に触れる。			◎	○
日本情報文化特論		講義	3・4	2	歌謡曲などの大衆文化を具体的にとりあげて、メディアとコンテンツの両面に目を配りながら、近現代の日本社会と大衆文化の歴史について学ぶ。	1.近現代の日本社会の歴史をメディアとそのコンテンツを通じて理解する。 2.歴史を通じて日本人に共有されている代表的な大衆文化作品について知る。 3.歌謡曲の歌詞などに出てくる当時の社会を反映した日本語のことばを学ぶ。			◎	○
日本環境文化特論		講義	3・4	2	日本の環境問題への取組みとエネルギー問題に関わる姿勢について概観する。	1.日本の産業化にともなう環境破壊と公害対策を知る。 2.日本のエネルギー問題、特に原子力および自然エネルギーについて学ぶ。		◎		○
観光地理学特論		講義	3・4	2	応用性の高い学際的分野である観光研究について、地理学からのアプローチを中心に研究例を学ぶ。研究の対象は、地域の文化資源や自然資源を観光に活用した観光地になる。とくに留学生の関心の高い日本の観光地の事例を取りあげる。	1.観光研究と観光地理学についての基礎的な理解を得る。 2.観光産業と旅行者の行動について基礎となる統計や計量的な研究を知る。 3.日本の主要な観光地と鉄道交通の整備について歴史と現状を理解する。			○	◎
ナラロジー特論		講義	3・4	2	奈良の世界遺産、日本遺産、自然遺産やその候補地、さらには伝統産業・ものづくり文化など、日本や世界的な価値基準に基づき、奈良の具体的なケース・スタディを学ぶ。	1.奈良の歴史的・自然的遺産がどのように異文化あるいは普遍的価値基準により定められたのかを知る。 2.それら価値基準を満たす現場の長期的営為を知る。		◎	○	
日本生活文化特論		講義	3・4	2	食文化研究の基本的な視角と世界の諸民族の食文化について学ぶ。授業中に、自身の出身地の食文化を日本語でクラスメートに紹介するプレゼンテーションを行い、同時に他のクラスメートのプレゼンテーションを通じ、世界各地の食文化について学ぶ。合わせて、日本の食文化を代表する米(コメ)や寿司(すし)などを取りあげて、現代の日本人の食生活についても具体的に学ぶ。	1.日本の食文化の特徴を、比較の視点をもって理解する。 2.日本語を用いて自身の出身地の食文化を紹介することができる。 3.食文化研究の概念や日本の食文化に関する日本語のことばを学ぶ。		◎	○	
入門日本語A(会話)		演習	1	1	入門日本語A(文法A・B、会話、総合)は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、主に「聞くこと」「話すこと」を重点的に学び、簡単なコミュニケーションができるような会話力を養う。	1.日常の基本的な場面での日本語による簡単なあいさつができる。 2.「聞くこと」「話すこと」を重点的に学び、簡単なコミュニケーションができる。 3.日本語の「文法」や「語彙」を体系的に習得し、基礎的日本語力を高める。	◎	○		
入門日本語A(講読)		演習	1	1	入門日本語A(文法A・B、会話、総合)の授業内容に関連した短い読みものを正しく読めるようになることを目指す。	1.ひらがなやカタカナ、簡単な漢字を正確に読むことができる。 2.簡単な漢字で書かれた短い文章が読めるようになる。	◎	○		
入門日本語A(文法A)		演習	1	1	入門日本語A(文法A・B、会話、総合)は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、初級前半の文法と基本文型約75、生活・基本語彙約1000語を学修する。	1.日常の基本的な場面での日本語による簡単なあいさつができる。 2.「聞くこと」「話すこと」を重点的に学び、簡単なコミュニケーションができる。 3.日本語の「文法」や「語彙」を体系的に習得し、基礎的日本語力を高める。	◎	○		
入門日本語A(文法B)		演習	1	1	入門日本語A(文法A・B、会話、総合)は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、初級前半の文法と基本文型約75、生活・基本語彙約1000語を学修する。	1.日常の基本的な場面での日本語による簡単なあいさつができる。 2.「聞くこと」「話すこと」を重点的に学び、簡単なコミュニケーションができる。 3.日本語の「文法」や「語彙」を体系的に習得し、基礎的日本語力を高める。	◎	○		

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(日本学)の学位を授与します。 ①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考) ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲) ③国内外の大学院への進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度) ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)									
	科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
							①	②	③	④
入門日本語A(作文)	演習	1	1	入門日本語A(文法A・B、会話、総合)の授業内容に関連したテーマについて簡単な作文が書けるようになることを目指す。	1.ひらがなやカタカナ、簡単な漢字を正確に書くことができる。 2.ひらがなやカタカナ、簡単な漢字で短い作文が書けるようになる。	◎	○			
入門日本語A(表記)	演習	1	1	入門日本語A(文法A・B、会話、総合)の授業進度に合わせて、ひらがなとカタカナ、初級前半レベルの漢字を学ぶ。	1.ひらがなとカタカナ、漢字220字程度を学ぶ。 2.正しい書き順で、読みやすい日本語の文字を書くことができる。 3.日本語のことはカタカナやひらがな、漢字で正しく表記できるようにする。	◎	○			
入門日本語A(総合)	演習	1	1	入門日本語A(文法A・B、会話、総合)は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、主に学んだ文法知識や表現を発展させる活動等をおこない、総合的な日本語力を身につける。	1.日常の基本的な場面での日本語による簡単なあいさつができる。 2.「聞くこと」「話すこと」を重点的に学び、簡単なコミュニケーションができる。 3.日本語の「文法」や「語彙」を体系的に習得し、基礎的な日本語力を高める。	◎	○			
入門日本語B(会話)	演習	1	1	入門日本語B(文法A・B、会話、総合)は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。中級の学修にスムーズに移行できるよう、日常の基本的な場面での会話能力を養う。	1.日常の基本的な場面での日本語によるコミュニケーションができる。 2.基礎的な日本語の「文法」「語彙」の拡充をはかる。 3.基礎的な文法項目を使って短い文章を書くことができる。	◎	○			
入門日本語B(講読)	演習	1	1	入門日本語B(文法A・B、会話、総合)の授業進度に合わせて、物語、解説文、インタビュー、アンケート、レシピなどさまざまなタイプの読みものに触れ、「読む」ことに慣れることで「読む」楽しさを身につける。	1.さまざまなタイプの読み物を読むことができる。 2.読み物に対して理解を深め、内容の要約ができる。 3.「読む」ことに慣れ、内容の類推ができる。	◎	○			
入門日本語B(文法A)	演習	1	1	入門日本語B(文法A・B、会話、総合)は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、初級後半の文法と生活・基本語彙約1000語を学修する。	1.日常の基本的な場面での日本語によるコミュニケーションができる。 2.基礎的な日本語の「文法」「語彙」の拡充をはかる。 3.基礎的な文法項目を使って短い文章を書くことができる。	◎	○			
入門日本語B(文法B)	演習	1	1	入門日本語B(文法A・B、会話、総合)は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。授業では、初級後半の文法と生活・基本語彙約1000語を学修する。	1.日常の基本的な場面での日本語によるコミュニケーションができる。 2.基礎的な日本語の「文法」「語彙」の拡充をはかる。 3.基礎的な文法項目を使って短い文章を書くことができる。	◎	○			
入門日本語B(作文)	演習	1	1	入門日本語B(文法A・B、会話、総合)の授業進度に合わせて、さまざまなテーマにそって各自の表現したいことについて書く練習をおこなう。また、短文の羅列ではなく、文章の構成パターンを身につけ、日本語の文章表現力を高める。	1.指定したテーマについて、まとまりのある文が書けるようになる。 2.文章の全体的な構成を意識化できるようになる。 3.作文のテーマをみつけることができるようになる。	◎	○			
入門日本語B(表記)	演習	1	1	入門日本語B(文法A・B、会話、総合)の授業進度に合わせて、初級後半レベルの漢字を理解し、「読み」「書き」が正しくできることを目指す。	1.正しい書き順で、読みやすい漢字が書ける。 2.学んだ漢字を含む語彙を広げる。 3.学んだ漢字を含む語彙を正しく読み、理解できるようになる。	◎	○			
入門日本語B(総合)	演習	1	1	入門日本語B(文法A・B、会話、総合)は、ひとまとまりのコースとして学ぶ。中級の学修にスムーズに移行できるよう、文の構造と意味、機能を総合的に理解する力を養う。	1.日常の基本的な場面での日本語によるコミュニケーションができる。 2.基礎的な日本語の「文法」「語彙」の拡充をはかる。 3.基礎的な文法項目を使って短い文章を書くことができる。	◎	○			
基礎日本語A(会話)	演習	1・2	1	「話す」「聞く」を中心とした中級前半の日本語会話能力の獲得を目指す。	1.自分の意見や希望を話すことができる。 2.相手によって適切な表現を使い分けることができる。	◎	○	○		
基礎日本語A(講読)	演習	1・2	1	中級前半の日本語読解能力の獲得を目指す。	1.重要な部分をもとに、長文の大意を理解することができる。 2.与えられた文章を要約することができる。	◎	○	○		
基礎日本語A(文法A)	演習	1・2	1	他の日本語科目にも応用できる中級前半の文法知識の獲得を目指す。	1.文法項目を理解し、適切に使える。 2.類義表現の使い分けができる。	◎	○	○		
基礎日本語A(文法B)	演習	1・2	1	他の日本語科目にも応用できる中級前半の文法知識の獲得を目指す。	1.文法項目を理解し、適切に使える。 2.類義表現の使い分けができる。	◎	○	○		

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(日本学)の学位を授与します。 ①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考) ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲) ③国内外の大学院への進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度) ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)									
	科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
							①	②	③	④
	基礎日本語A(作文)	演習	1・2	1	中級前半の日本語の「書く」能力の獲得を目指す。	1.場面や状況に応じた書き方ができる。 2.全体の構成を考えた文章が書ける。	◎	○	○	
	基礎日本語A(表記)	演習	1・2	1	主に基礎日本語Aの文法A・B、読解の教材で学ぶ漢字語彙・カタカナ語彙を理解し、正しく書けるようになることを目指す。	1.正しい書き順で漢字が書ける。 2.状況に応じて正しい読み方で漢字が読める。 3.カタカナ語彙の意味を理解し、正しい表記で書ける。	◎	○	○	
	基礎日本語A(総合)	演習	1・2	1	新聞・雑誌などを教材に、時事的な話題について討論したり自らの意見を書いたりできるような総合的な日本語力の獲得を目指す。	1.時事的な話題を理解し、説明することができる。 2.与えられた話題について、自分の意見を話したり書いたりすることができる。	◎	○	○	
	基礎日本語B(会話)	演習	1・2	1	「話す」「聞く」を中心とした中級後半の日本語会話能力の獲得を目指す。	1.自分の意見や希望を話すことができる。 2.相手によって適切な表現を使い分けことができる。	◎	○	○	
	基礎日本語B(講読)	演習	1・2	1	中級後半の日本語読解能力の獲得を目指す。	1.重要な部分をもとに、長文の大意を理解することができる。 2.与えられた文章を要約することができる。	◎	○	○	
	基礎日本語B(文法A)	演習	1・2	1	他の日本語科目にも応用できる中級後半の文法知識の獲得を目指す。	1.文法項目を理解し、適切に使える。 2.類義表現の使い分けができる。	◎	○	○	
	基礎日本語B(文法B)	演習	1・2	1	他の日本語科目にも応用できる中級後半の文法知識の獲得を目指す。	1.文法項目を理解し、適切に使える。 2.類義表現の使い分けができる。	◎	○	○	
	基礎日本語B(作文)	演習	1・2	1	中級後半の日本語の「書く」能力の獲得を目指す。	1.場面や状況に応じた書き方ができる。 2.全体の構成を考えた文章が書ける。	◎	○	○	
	基礎日本語B(表記)	演習	1・2	1	主に基礎日本語Bの文法A・B、読解の教材で学ぶ漢字語彙・カタカナ語彙を理解し、正しく書けるようになることを目指す。	1.正しい書き順で漢字が書ける。 2.状況に応じて正しい読み方で漢字が読める。 3.カタカナ語彙の意味を理解し、正しい表記で書ける。	◎	○	○	
	基礎日本語B(総合)	演習	1・2	1	新聞・雑誌などを教材に、時事的な話題について討論したり自らの意見を書いたりできる、より高度な総合的な日本語力の獲得を目指す。	1.時事的な話題を理解し、説明することができる。 2.与えられた話題について、自分の意見を話したり書いたりすることができる。	◎	○	○	
	ビジネス日本語1	講義	2・3	2	企業側としては、売上増加(顧客数の増加・種類の豊富な商品提供・付加価値の高い商品開発)・利益増加(売上の増加・顧客のニーズに適合・効果的な経費)を目指したい。それには顧客の確保が重要なカギとなる。ここでは、従業員と顧客の関わりについて理解すると同時に、ビジネス場面に必要な文書の様式や体裁、日本語における独特の表現や言い回しについて学ぶ。	1.売上げと利益についての理解を深める。 2.顧客のニーズの重要性について学ぶ。 3.従業員と顧客の関わりについて理解する。 4.様々なビジネス場面に対応できる日本語能力(四技能)を身につける。	◎	○	○	
	ビジネス日本語2	講義	2・3	2	企業としては、顧客のニーズを分析し、顧客の満足度をアップさせることで、互いに信頼関係を築かなければならない。地道な努力が最終的には売上げと利益に繋がる。ここでは、企業と顧客との関わりについて理解すると同時に、ビジネス場面に必要な表現力や応用力を身につけることができる。	1.おもてなしの心についての理解を深める。 2.サービスに対する満足度を顧客の立場から考える。 3.企業と顧客の関わりについて理解する。 4.ビジネス場面に必要な表現力や応用力を身につける。	◎	○	○	
	日本語実践研究1	講義	2・3	2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語のある程度理解することができるようになるための語彙や文法の獲得を目指す。	1.幅広い場面で使われる日本語を理解するために必要な語彙と文法の意味や使い方がわかるようになる。 2.これまで学んだ語彙や文法をさまざまな場面に合わせて適切に使えるようになる。	◎	○	○	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(日本学)の学位を授与します。 ①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考) ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲) ③国内外の大学院への進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度) ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)									
	科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
							①	②	③	④
日本語実践研究2	講義	2・3	2	日本語能力試験(JLPT)N1合格を目指す者を対象とし、幅広い場面で使われる日本語が理解できるようになるための語彙や文法の獲得を目指す。	1.幅広い場面や話題(新聞の論説・評論、ニュースや講義など)で使われる難易度の高い日本語を読んだり聞いたりして、ある程度の内容や構成を理解することができる。 2.語彙や表現の微妙なニュアンスの違いを認識し、文章や話の内容をより深く理解できるようになる。 3.学んだ語彙をさまざまな場面に合わせて適切に使うことができる。	◎	○	○		
日本研究演習1	演習	3	2	日本研究に関するテキストを読み、その内容や、自身の研究テーマに関するプレゼンテーション(配布資料を用いた口頭発表)を行うことから、日本の大学の「演習」で行われている卒業論文のための研究について初歩的な理解を得る。	1.先行研究を調べて、自身の研究テーマを決めることから、日本語の学術書・学術論文の検索能力・読解能力を高める。 2.研究計画書の作成を通じ、日本語の文章作成能力を高める。 3.プレゼンテーションを通じ、日本語で研究を行うための方法を実践的に学ぶ。	○	○	◎	○	
日本研究演習2	演習	3	2	日本研究に関するテキストを読み、その内容や、自身の研究テーマに関するプレゼンテーション(配布資料を用いた口頭発表)を行うことから、日本の大学の「演習」で行われている卒業論文のための研究について基礎的な理解を得る。	1.自身の研究テーマについての研究文献を読み進めることから、日本語の学術書・学術論文の読解能力を高める。 2.研究計画書に従って調査を進めることから、日本語の運用能力を高める。 3.調査結果についてのプレゼンテーションを通じ、日本語で研究を行うための方法を実践的に学ぶ。	○	○	◎	○	
日本研究演習3	演習	4	2	自身の研究に関するテキストを読み、その内容や自身の研究に関する発表をすることから、日本の大学の「演習」で行われている卒業論文のための研究について発展的な理解を得る。	1.調査成果等をプレゼンテーションを通じて表現する能力を高める。 2.論文を書くことから日本語の作文能力を高める。 3.論文作成を通じ、研究を行う方法について実践的に学ぶ。	○	○	◎	○	
日本研究演習4	演習	4	2	自身の研究に関する発表を行い、自身の論文を書き進めて行くことから、日本の大学の「演習」で行われている卒業論文・卒業課題研究のための研究を完成させる。	1.独自の研究を進めるための高度な研究能力を身につける。 2.論文を書くことから高度な日本語能力を身につける。 3.論文についてのディスカッションを通じ、研究を行う方法について実践的に学ぶ。	○	○	◎	○	
日本文化体験実習1	実習	2・3・4	2	日本の文化に直接触れる貴重な機会として、担当教員が企画し、学生たち自身も積極的に計画立案に参加して、天理大学の近隣地域で実地調査を行う。授業時には、実地調査の準備や報告書の作成も行う。	1.実地調査の一連の過程を通じ、研究を計画し実践する能力を養う。 2.実地調査を通じて、日本語の運用能力を高める。 3.天理大学の近隣地域についての理解を深める。 4.問題を発見し、自身が得た知識、考えた解決策を報告書にまとめる能力を養う。	○	◎			
日本文化体験実習2	実習	2・3・4	2	日本の文化に直接触れる貴重な機会として、担当教員が企画し、学生たち自身も積極的に計画立案に参加して、天理大学の内外で体験活動を行う。授業時には、体験活動の準備や報告書の作成も行う。	1.体験活動の一連の過程を通じ、学内・学外での様々な活動を計画し実践する能力を養う。 2.体験活動を通じて、日本語の運用能力を高める。 3.日本文化についての理解を経験的に深める。 4.自身が得た知識や考え、感想を報告書にまとめる能力を養う。	○	◎			
卒業課題研究		4	2	学部・学科教育の集大成であり、4年間学んできた成果を表現する場である。関心のある対象・テーマに関して、先行研究を踏まえながら、独自の意見を形成し、説得的かつ論理的な論文を作成する能力を養成する。	1.先行研究に関する文献調査ができる。 2.テーマに関するフィールド調査・アンケート調査ができる。 3.独自の意見を形成できる。 4.意見を論文のルールにしたがって表現できる。	○	○	◎	○	
卒業論文		4	4	学部・学科教育の集大成であり、4年間学んできた成果を表現する場である。関心のある対象・テーマに関して、先行研究を踏まえながら、独自の意見を形成し、説得的かつ論理的な論文を作成する能力を養成する。	1.先行研究に関する文献調査ができる。 2.テーマに関するフィールド調査・アンケート調査ができる。 3.独自の意見を形成できる。 4.意見を論文のルールにしたがって表現できる。 5.口頭試問を通じ、自身の作成した論文の内容について口頭で十分な説明をすることができる。	○	○	◎	○	